



神山天文台マスコットキャラクター  
ほしみ〜ちゃん®

## Schedule 今月の開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
		1 ×	2 ×	3 ×	4 ×	5 ×
6 ×	7	8	9	10	11	12 ×
13 ×	14	15	16	17	18	19 ×
20	21 ×	22	23	24	25	26 ×
オープンキャンパス 施設見学 10:00-15:30	海の日					シンポジウム 「金星のことなら 京産大 / 理学部」 13:30~16:30 @キャンパスプラザ京都
27 ×	28	29	30	31		

施設見学 9:00~16:30  
土曜日は天体観望会実施日のみ 14:30~17:30

天体観望会 19:00~21:00  
(定員あり / 要予約)

休館日

月の形 (満月・新月・半月および観望会実施日)

事務室閉室日  
(問い合わせ等対応不可)

### 施設見学

1階常設展示フロアでは「望遠鏡 × 宇宙探査」、また、3階では荒木望遠鏡 (国内私立大学最大口径の反射式望遠鏡) の見学が可能です。(展示替えのため7/1~5は休館)

### 天体観望会

荒木望遠鏡や小型望遠鏡で天体を観察することができ、天文台専門スタッフが望遠鏡や天体について解説を行います。  
また、宇宙の3D映像上映会を開催します。  
(コンテンツは予告なく変更する場合があります)

## よくある質問 ?

観望会でよく聞かれる質問にお答えします★

### ? 荒木望遠鏡で天の川は見えるの?

望遠鏡は狭い範囲を拡大するため、たとえば天の川の中にある星を見ることはできますが、天の川の形を望遠鏡で確認することはできません。天の川の形を見るには、京都市内の街明りに邪魔されないように、もう少し市街地から離れた場所へ行く必要があります。山や海などへ旅行に行かれた際には、ぜひ、天の川を探してみてください。

### ? セタの夜、織姫星と彦星は本当に近づくの?

残念ながら、織姫星 (こと座のベガ) と彦星 (わし座のアルタイル) がセタの夜に近づくことはありません。実際には織姫星と彦星との間は、この世で一番速い光でさえ14年半もかかるほど離れています。天の川をはさんで輝いている2つの星の配置から、中国でセタ伝説が生まれ、日本へ伝わってきました。

### ? どうすれば流れ星を見ることができますか?

月や街の明かりにじゃまされないような空の暗いところ、また、空が見わたせるところに出かけてみてください。数時間に1~2個くらいの流れ星を見ることができるでしょう。『流星群』の時期をねらって夜空を見上げるのもオススメです。いつもより多めに流れ星を見ることができます。

★ ペルセウス座流星群 (8月13日ごろ) 下弦前の月が明るい…

★ ふたご座流星群 (12月14日ごろ) 下弦すぎの月あり

## 夏の三大角

今年もセタの季節がやってきたね!!



1年に1度だけ、織姫と彦星は天の川を渡って会えるという言い伝えがあるけど



文部科学大臣表彰  
受賞記念シンポジウム

## 金星のことなら 京産大 / 理学部

7月26日 (土) 開催! 予約制

時間: 13時30分~16時30分 (二部制)

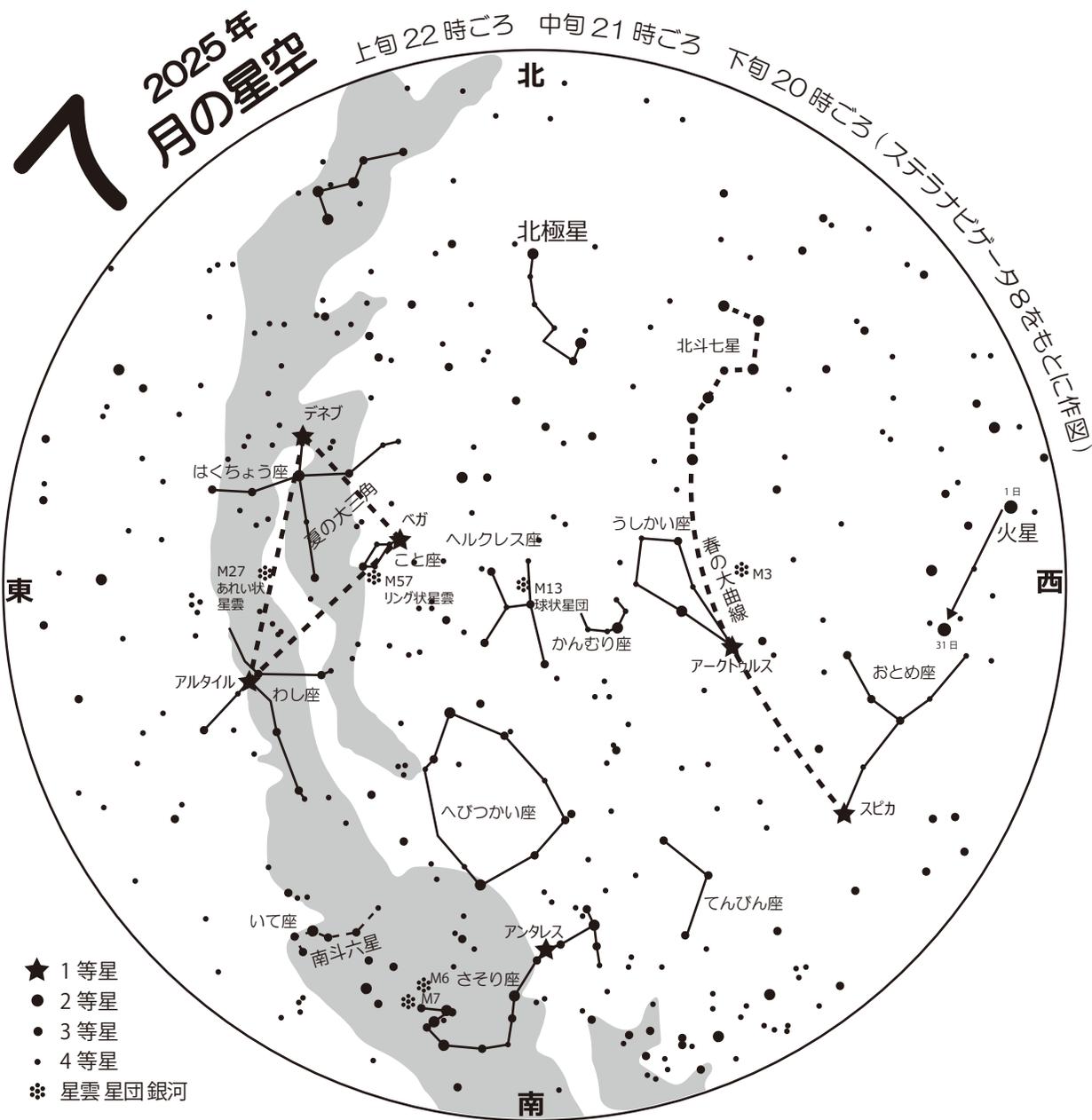
会場: キャンパスプラザ京都 第1講義室

※詳細は神山天文台 HP をご覧ください。

京都産業大学 理学部 安藤紘基 准教授が、「令和7年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰」を受賞したことを記念したシンポジウムを開催します。第一部では、JAXA名誉教授の中村正人氏と文部科学大臣表彰を受賞した安藤准教授が講演します。第二部では、中村氏に加え、安藤准教授、佐川教授、高木教授の4名が、金星に関する皆さんの質問に何でもお答えします。



# 2025年7月 見ごろの天体



★夏の大三角 (なつのだいさんかく) : The summer triangle  
はくちょう座のデネブ、わし座のアルタイル、こと座のベガの3つの明るい星を結んで描かれる大きな三角形は夏の大三角と呼ばれています。ベガとアルタイルは、七夕の伝説における「織姫」と「彦星」です。

★二重星 (にじゅうせい) : Double star  
重星は、肉眼で見ると1つの星ですが、望遠鏡で見ると2つの星に見えます。夏に見られる代表的な重星には、はくちょう座のアルビレオ (金色と青色の2つの星が寄り添って見える)、さそり座のβ星 (爽やかな青いペア) があります。こと座には、二重星がさらに2つずつの二重星となっている、ダブル・ダブル・スターと呼ばれる星もあります。

★球状星団 (きゅうじょうせいだん) : Globular cluster  
球状星団は、数十万の恒星の集まりです。私達の銀河系の中には、約150個の球状星団があり、球状星団の中の星たちは非常に高齢で、100億歳以上の星もたくさんあります。夏には、ヘルクレス座のM13、りょうけん座のM3、へび座のM5などの球状星団が見られます。

★赤色巨星 (せきしょくきょせい) : Red giant  
恒星は、一生の大部分は安定して輝く時期 (「主系列星」と言います) が続きます。しかし、恒星の内部の水素を使い果たすと、恒星は自身の重力で縮み始め、その際に発生する熱によって外側のガスはさらに外へと膨張し、巨大な星になります。膨張すると表面の温度が低くなるため赤色に見えます。夏には、うしかい座のアークトゥルス (直径は太陽の約20倍) やさそり座のアンタレス (直径は太陽の約600-800倍) が見られます。

★惑星状星雲 (わくせいじょうせいうん) : Planetary nebula  
太陽程度の重さの恒星は、一生の最後に水素ガスを使い果たして赤色巨星となった後、外側のガスを周囲に放出します。この放出されたガスが輝いて見えるのが惑星状星雲です。望遠鏡で見たときに、まるで惑星のように丸くほんのり色づいていることから、このような名前がついています。こと座にはリング星雲と呼ばれる惑星状星雲 M57 があり、望遠鏡で見るとドーナツのような形を見ることができます。

## 7月7日 七夕

織姫、彦星の物語が有名な七夕は、中国の裁縫の上達を願う「乞巧奠 (きこうでん)」と、日本の「着物を棚に供え、秋の豊作を祈り、穢れを払う行事」とが合わさった行事といわれています。裁縫だけでなく、書道や芸事など、いろいろな願い事をしますね。現在の暦では7月7日は梅雨が明けないことが多く、織姫、彦星も遅い時間にならないと昇ってきません。月をもとにした暦、旧暦のほうが季節感が合います。今年の旧暦の伝統的七夕は8月29日です。